

# 三重県シエアリングネイチャー協会

平成9年、社団法人「日本ネイチャーゲーム協会」設立に続いて、同11年に「三重県ネイチャーゲーム協会」を結成。その後、同25年に公益社団法人「日本シエアリングネイチャー協会」と名称を改めたことを受け、「三重県シエアリングネイチャー協会」となりました。現在、約100名の会員が連携して、ネイチャーゲームの普及とシエアリングネイチャーの理念の実現に向けて活動しています。年に1度、リーダー養成講座も実施しています。



櫻木 善仁理事長

### お問い合わせ

「三重県シエアリングネイチャー協会」事務局  
亀山市安坂山町1758-4  
TEL 090-3151-9725  
<http://www.geocities.jp/sngmie/>

三重県内で活動するグループを紹介する「いま、グループネット」。今回は「三重県シエアリングネイチャー協会」をご紹介します。この日は、理事長の櫻木善仁さんにお話を伺いました。

——まず、「シエアリングネイチャー」について教えてください。

櫻木：昭和54（1979）年アメリカのナチュラリストであるジョセフ・コーネル氏が『Sharing Nature With Children』で発表した活動のことで、野外でのゲーム（ネイチャーゲーム）を通じて、自然への認識を深めることを目標にしています。こ

こで大切なのは、さまざまな感覚を使って自然を直接体験し、自然への共感をはぐくむということ、人と自然を分かち合う（シエアリング）という考え方です。

——単純に自然を楽しもうという考えではないのですか。

櫻木：そうです。その深い理念が共感を呼び、現在、書籍は世界18か国語に翻訳されています。日本でも、同61（1986）年に『ネイチャーゲーム』というタイトルで日本語版が発行されると、普及活動が活発化し、平成5年に任意団体「日本ネイチャーゲーム協会」が設立されました。その後、同協会は社団法人となり、さらに、公益社団法人「日本シエ

リング」など、少し広い場所があればできるゲームもあり、現在、その種類は、160以上あります。

——なるほど。大人も子どもも手軽に楽しめそうですね。

櫻木：そうです。今では、年間20校ほどの小学校や幼稚園、さらには老人福祉施設などにもお邪魔して、指導しています。子どもたちは、普段見慣れているはずの校庭に、知らない木の実などが落ちていることにすぐ興味を持ってくれます。また、ゲーム後に「どう感

じたか」を振り返ることで、人は自分とは違うということを理解する機会にもなっています。

——毎年開催している「わくわく自然体験活動」も大変な人気だと伺いました。

櫻木：小学3・4年生を対象に行っている、1泊2日の「わくわく自然体験活動」は「四日市・いなべ地域の会」が中心となって開催しています。毎回、募集人員の3倍以上の申込みがあるほどです。例年は夏と秋の開催ですが、昨年2

アリングネイチャー協会」と名称を改め、人が自然を尊重し共生していく社会を創造することを目的にしています。

——具体的には、どこでどんなことをするのですか？

櫻木：海・山・川など、自然豊かな三重県では、さまざまなネイチャーゲームが可能ですが、実は、多くのものは、公園や小学校の校庭などでも行うことができます。たとえば校庭などでよく行う「森の色あわせ」は、自然の中にある、さまざまな色を探すというもので、四季を通じて実施できます。また、ある生物の特徴を数枚の紙に分けて記入しておいて、それらを集めると、一つの生物が完成するという「動物ヒントリ

月に「冬のわくわく自然体験活動」を実施したところ、大変好評でした。子どもたちは、材料を入れたアルミ缶を雪の中で転がしてアイスクリームを作ったり、雪の上に倒れ込んだ跡を見て「このぬけ跡だあれ」というネイチャーゲームなどを元気にやってくれました。今後、このような活動を継続する予定です。

——ありがとうございます。櫻木さんのお話で、ネイチャーゲームの楽しさと奥深さを知ることができました。

インタビュー…中村真由美



ネイチャーゲーム「森の色あわせ」※



ネイチャーゲーム「動物ヒントリレー」※



「冬のわくわく自然体験活動」※



各「わくわく自然体験活動」の活動報告書

※印の写真は取材先から提供していただきました